

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立湖東中学校）

平成30年9月25日

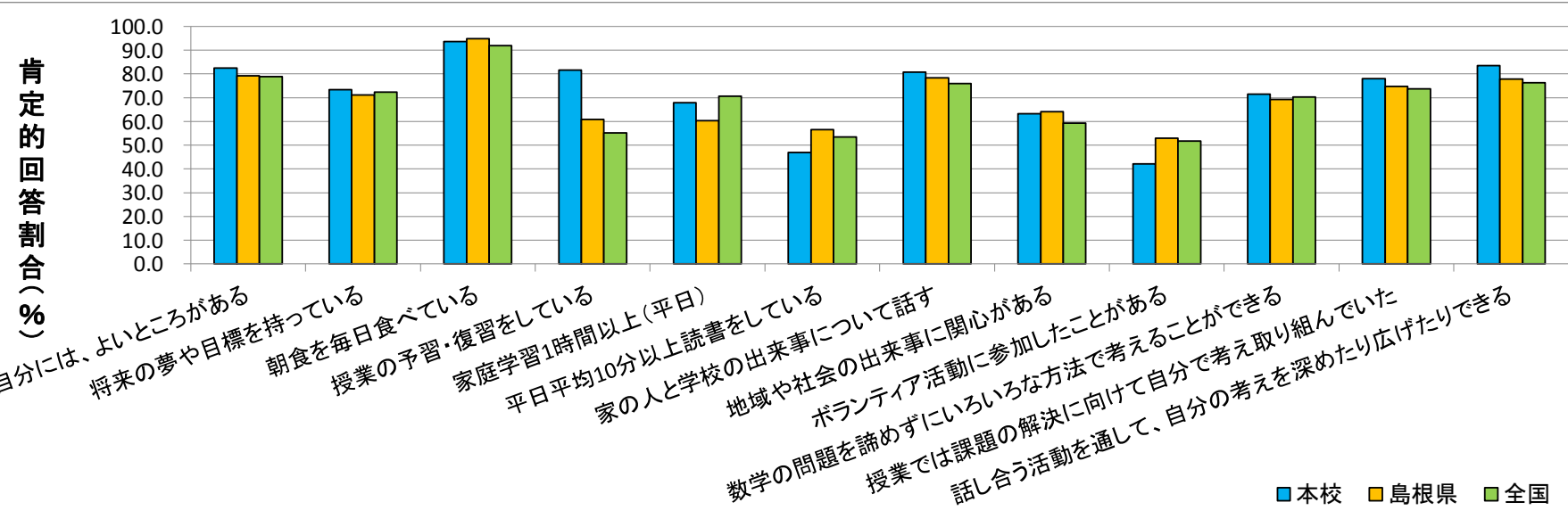
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○文章の内容を理解したり、わかりやすい文に直したりすることが比較的できている。 ●漢字の読みについてはかなりできているが、書くことや文法の内容について一部定着していない項目がある。	・引き続き、定期的にテストを行うなどして、漢字を正確に書く力を養う。 ・文法や文のつながり等にかかわる内容について振り返る時間を設け、語句の適切な使い方や、文の正しいつながり方を身につけられるようにする。 ・グループで考えを交流する時間を増やすなどし、考えを相手に的確に伝える力を養う。
	B (活用)	○(活用)の項目については比較的正答率が高く、力が定着していることがうかがえる。 ●「相手の反応を踏まえて話す」ことの正答率が低い。	
数学	A (基礎)	○確率を求めたり、資料を読みとって代表値を求めたりすることが比較的できている。 ●一次関数についての理解が不十分であり、グラフの特徴を読み取ったり、増加量を求めたりする問題を苦手と感じている生徒が多い。	・毎時間の小テストを継続的に行い、授業内容の定着を図る。 ・定期的に復習テストや、単元別テストを実施し、基礎基本の充実を図る。
	B (活用)	○与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる。 ●事象を数学的に解釈したり、問題解決の方法を数学的に説明したりする学習が不十分である。	
理科		○地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用する問題で、無解答率が0%、正答率も高くなっている。 ●「神経系の働きについての知識」の正答率が低い。また、記述式の問題の無解答率が高くなっている。	・基礎基本的な問題の定着をはかる。 ・実験結果について考察をしたり、科学的な根拠を用いて事象を説明する力をつける。

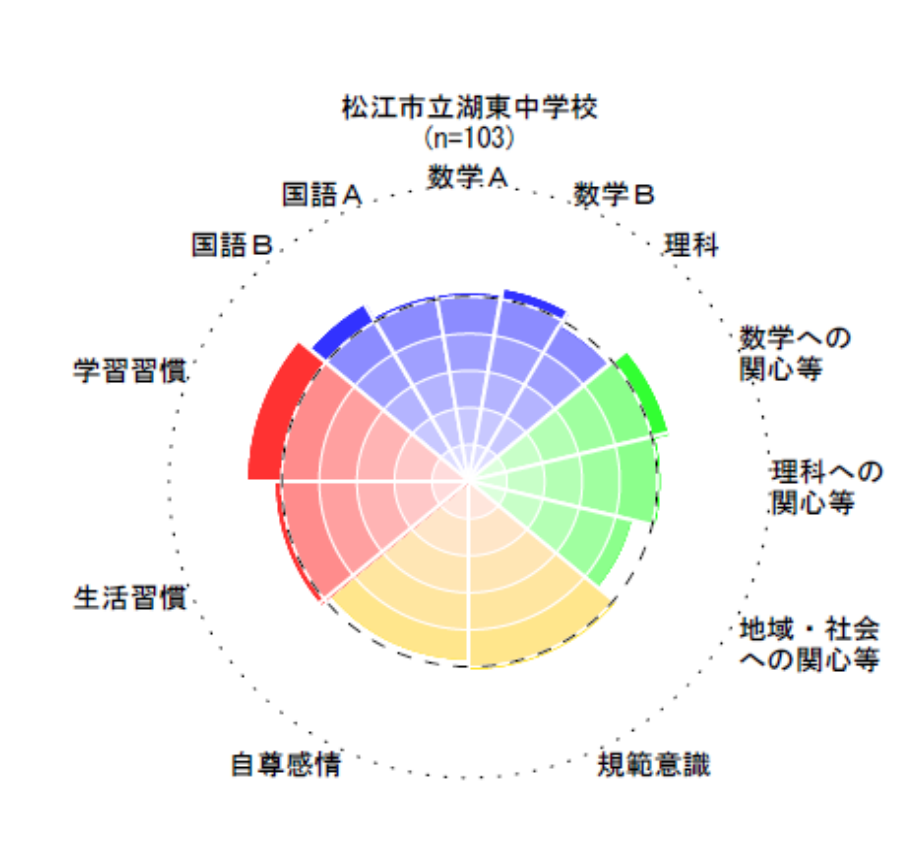
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
○授業の予習・復習をしている生徒の割合が高いのは、特に「フクスタ（復習スタディ）ノート」の取組が定着してきている成果だと考えられる。 ●ボランティア活動への参加の割合が低く、地域に関心がある生徒の割合も高くない。	・引き続き「フクスタ」の取組を継続するほか、これを充実させる方策も工夫していく。 ・引き続き地域のボランティア活動への参加を呼びかけるほか、学校の地域開放の機会を利用するなど、地域の方と交流する機会を広げる。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・引き続き本校の特徴的な取組である「パート活動」を継続、充実させ、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を高める場面づくりに力を入れる。 ・職場体験学習、人権教育講演会、性教育学習などによって、自分の生き方を真剣に考える機会を増やし、自分にあった進路を選択していけるように支援する。

【参考】

○平均正答率		(%)			
		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	76	76	76	76.1
	B	65	61	61	61.2
数学	A	66	65	64	66.1
	B	48	46	45	46.9
理科		65	65	66	66.1

受検者数 103 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。